



のこのこたより



令和 7年 4月 第120号

社会福祉法人晃宝会

特別養護老人ホームあじさい園 宝

住所：奈良市南肘塚町99番1

電話：0742-24-0878 fax：0742-23-0373

令和7年度 事業計画 法人目標「初心忘るべからず」

室町時代に能を大成させた世阿弥の「花鏡」の言葉です。世阿弥のいう「初心」とは、「始めた頃の気持ちや志」のことで「芸の未熟さ」を指しています。初心者の頃の、未熟さを思い出すことにより、あのみじめな状態には戻りたくないと思うことにより、さらに精進できると世阿弥は説いています。また、若い頃の未熟な芸を忘れなければ、そこから向上した今の芸も正しく認識できるのだと。

福祉事業に当てはめますと、「長年仕事をしてきた私達が、新人さんの言動や仕事ぶりを見て、はじめの頃の未熟な自分を思い出し、今、本当に成長しているのか、思い描いた自分になっているのか、を自問自答しながら精進していきなさい。」という世阿弥のアドバイスといえるのではないのでしょうか。

奈良市東部の茗荷町のあじさい園開設30周年、南肘塚町のあじさい園宝開設10周年を目前にし、これからも法人一丸となり、今までの経験や知識から得たそれぞれの事業所からの知恵を結集し、さらに進化成長を目標にして惜しみない努力を重ねたいと思います。

令和7年5月より、茗荷町808-1特別養護老人ホームあじさい園の隣接地において「オレンジカフェあい」をオープンいたします。水門町のオレンジカフェすいもんの手作りケーキを提供し、カフェすいもん同様、ご利用者・ご家族・地域の皆様のくつろぎの場となりますよう努めてまいります。

あらためて、これまで安定運営を継続できたことに心より感謝申し上げます。言葉では言い尽くせない、職員の並々ならぬ努力と人間愛、ご利用者ご家族の温かさ優しさ、地域の皆様のご理解とご協力、たくさんのお客様の心のもったご指導ご支援のおかげさまでです。

平成8年「一緒に生活する、いい人生」。

人生の大先輩であるご利用者様に尊敬の念を持って寄り添い、幸せな日常生活を過ごしていただきたい、と一心に願い、あじさい園が始まりました。笑顔で一日一日を大切に、とあじさい園宝が始まりました。

これからも私達はその素直な思いを持ち続け、力を合わせて努めてまいります。

GHのご利用者様は、あじさいサロンで、地域の皆様と一緒に「ゆき」や「ひなまつり」の曲に合わせて手話や体操を楽しみました。



極楽坊あすかこども園の園児さん達が来園して下さい、ピアノの演奏や元気な歌声を披露してくれました。園児さんとのじゃんけんでは、童心にかえて楽しんでおられました。毎回園児さんとの交流会は、宝全員が元気をいただいております。来年度も楽しみにお待ちしております。



お雛人形を飾らせていただき、お雛祭りをお祝いしました。どのご利用者様からも「かわいらしいなあ」笑顔で喜びいただきました。



第11回 GHの運営推進会議を開催！「認知症カフェ」について研修しました。



4月行事予定 3日：あじさい園29周年祝
14日：あじさいサロン(GH) 14:00
18日：宝開園10周年記念お祝
寿司バイキング(昼食)お誕生日会
22日：防災訓練 特養(午前) GH(午後)
23日：春のコンサート(コールショーン) 10:30
寿司バイキング(昼食)お誕生日会 15:00

いつもご協力、ご支援ありがとうございます。事前予約での面会を行っております。お忙しい中面会にお越しいただきありがとうございます。

第 95 回 歯磨きの歴史②

健康な歯を抜く、削る！ 縄文人のフシギな風習

歯抜けが いいの？

笑顔の口元から、きれいに並んだ白い歯がのぞくのは、とても魅力的。けれど、1万2000年から2500年ぐらい昔、日本列島で狩猟採集生活をしていた縄文人にとっては、違っていました。

縄文人には、健康な切歯や犬歯をわざわざ抜く風習がありました。縄文時代後期には成人男女のほとんどが歯を抜いていて、中には8本もの抜歯の跡がある人骨も発掘されています。にっこり笑うと、所々ぽっかりと歯が抜けていて、暗い穴が見える……。それがいいなんて、なんとも不思議な感性です。

硬くて丈夫な歯は、霊的な力のシンボルでした。だから成人や婚姻などの通過儀礼や、病気が治るように祈るときに、抜歯をしたのだと見られています。痛みを耐えることで霊的なパワーが得られたのかもしれませんが。実は、さらに不思議な人骨も発見されています。それは、4本の前

歯にフォークのような切れ込みを入れたものの。これは、叉状研歯(さじょうけんし)と呼ばれ、集団のリーダーやシャーマンなど「特別な役割」の証だったようです。ちなみに歯を削る道具は石器です。どれほど痛かったことでしょう。

虫歯の発生率はどれぐらい？

ところで、縄文人の歯の状態はどんなものだったのでしょうか。歯並びはよいのですが、年齢以上にかみ合わせ部分のすり減りが激しくて、中には、馬の鞍のようになっているものもありました。原因は、砂混じりの硬い食べ物を食べていたことと、動物の皮をなめすときや、樹皮をかんで繊維を得る作業のときに、道具として歯を大いに活用していたからです。

「それならむし歯は少なそう」という印象がありますが、近年の研究をまとめた『古病理学事典』によれば、縄文人のむし歯発生率は8.2%。意外に多いのです。同じ新石器時代に属している7600年前のアメリカ先住民の約20倍、近代のグリーンランドのイヌイットの約4倍です。理由は、縄文人が動物の肉だけでなく、クリなどの堅果類やイモなど根茎類といった糖質を含む豊かな食生活を送っていたからだろうと考えられています。

